

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 中国財務局長

【提出日】 平成25年1月11日

【四半期会計期間】 第44期第3四半期  
(自平成24年9月1日至平成24年11月30日)

【会社名】 株式会社天満屋ストア

【英訳名】 TENMAYA STORE CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 橋本和雄

【本店の所在の場所】 岡山市北区岡町13番16号

【電話番号】 岡山(086)232局7266番

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部副本部長兼経理財務グループリーダー  
宮本和雄

【最寄りの連絡場所】 岡山市北区岡町13番16号

【電話番号】 岡山(086)232局7266番

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部副本部長兼経理財務グループリーダー  
宮本和雄

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第43期 第3四半期 連結累計期間	第44期 第3四半期 連結累計期間	第43期
会計期間		自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日	自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日	自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日
売上高	(千円)	57,148,646	56,857,558	77,137,414
経常利益	(千円)	1,208,796	1,212,214	2,015,694
四半期(当期)純利益	(千円)	138,486	516,265	327,824
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	143,313	527,713	340,844
純資産額	(千円)	15,354,389	16,019,435	15,551,920
総資産額	(千円)	64,631,183	62,447,132	62,650,123
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	11.99	44.69	28.38
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	23.7	25.6	24.8

回次		第43期 第3四半期 連結会計期間	第44期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年9月1日 至 平成23年11月30日	自 平成24年9月1日 至 平成24年11月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	15.17	2.83

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3 第43期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要などにより、一部に緩やかな回復の兆しが見られましたものの、海外経済の減速や貿易収支の悪化などにより、景気の先行きは不透明な状況が続いてまいりました。また、雇用情勢や所得環境が依然として厳しいなか、個人消費は引き続き低調なまま推移いたしました。

こうしたなか当社グループは、営業力の強化と収益力の向上への取り組みに注力するとともに、コーポレート・ガバナンスの充実に努めてまいりました。

事業拡張につきましては、当社において平成24年3月にアルネ津山店(岡山県津山市)を、7月に表町店(岡山市北区)を、11月に玉島店(岡山県倉敷市)をそれぞれ新設いたしました。また、株式会社天満屋八ピーマートにおいて平成24年8月に小田中店(岡山県津山市)を移転開設いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の営業収益(売上高及び営業収入)は593億58百万円(前年同四半期比0.5%減)、営業利益は13億89百万円(前年同四半期比4.1%減)、経常利益は12億12百万円(前年同四半期比0.3%増)、四半期純利益は5億16百万円(前年同四半期比272.8%増)となりました。

セグメントの概況は次のとおりであります。

#### (小売事業)

小売事業につきましては、親しみやすさと楽しさのある店づくりを目指し、地域のお客様のニーズに対応した品揃えの充実や販売促進活動の見直しなどにより、営業力の強化に取り組んでまいりました。また、岡南店(岡山市南区)や岡北店(岡山市北区)の改装など既存店舗の活性化にも注力してまいりました。この結果、当第3四半期連結累計期間の小売事業の営業収益は547億9百万円(前年同四半期比0.6%減)、営業利益は11億67百万円(前年同四半期比2.9%減)となりました。

#### (その他)

その他の事業につきましては、惣菜等調理食品の製造販売が主なものであり、引き続き徹底した品質管理と衛生管理に努めるとともに、商品開発力の強化や生産性の向上に取り組んでまいりました。この結果、当第3四半期連結累計期間のその他の事業の営業収益は46億49百万円(前年同四半期比0.8%増)、営業利益は2億22百万円(前年同四半期比9.9%減)となりました。

なお、上記金額には、消費税等は含んでおりません。

## (2) 財政状態

### 資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ2億2百万円減少し、624億47百万円となりました。これは主に、流動資産が4億11百万円増加したものの、有形固定資産が1億14百万円減少したことや、差入保証金の減少などにより投資その他の資産が4億48百万円減少したことによるものであります。

### 負債

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ6億70百万円減少し、464億27百万円となりました。これは主に、有利子負債が減少したことによるものであります。

### 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ4億67百万円増加し、160億19百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加によるものであります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年11月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年1月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,550,000	11,550,000	大阪証券取引所 (市場第二部) 東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 100株
計	11,550,000	11,550,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年11月30日		11,550,000		3,697,500		5,347,500

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記録内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成24年8月31日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成24年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,548,800	115,488	
単元未満株式	普通株式 900		
発行済株式総数	11,550,000		
総株主の議決権		115,488	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式100株(議決権1個)が含まれております。  
2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式47株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社天満屋ストア	岡山市北区岡町13番16号	300		300	0.00
計		300		300	0.00

2 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役営業本部副本部長兼 営業推進グループリーダー	取締役営業本部副本部長兼 商品第二部統括部長	高原 俊 六	平成24年9月16日
取締役管理本部副本部長兼 経理財務グループリーダー	取締役管理本部副本部長兼 経理部統括部長	宮 本 和 雄	平成24年9月16日

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年9月1日から平成24年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年3月1日から平成24年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、イースト・サン監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,059,253	1,157,396
売掛金	1,203,953	1,288,768
営業貸付金	662,935	520,474
商品	4,567,457	4,840,373
貯蔵品	39,687	62,554
その他	1,459,004	1,515,200
貸倒引当金	156,266	137,153
流動資産合計	8,836,025	9,247,614
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	16,695,003	16,366,123
土地	16,658,438	16,658,438
その他(純額)	1,521,110	1,735,248
有形固定資産合計	34,874,553	34,759,810
無形固定資産		
のれん	561,918	596,080
その他	3,169,373	3,083,424
無形固定資産合計	3,731,292	3,679,505
投資その他の資産		
差入保証金	5,441,640	5,064,570
敷金	7,348,830	7,224,005
その他	2,437,757	2,491,662
貸倒引当金	19,976	20,035
投資その他の資産合計	15,208,251	14,760,202
固定資産合計	53,814,097	53,199,517
資産合計	62,650,123	62,447,132



	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,693,938	7,622,361
短期借入金	15,339,844	12,390,412
未払法人税等	337,430	289,507
賞与引当金	109,556	127,000
その他	2,277,168	2,714,623
流動負債合計	22,757,937	23,143,904
固定負債		
長期借入金	16,882,553	15,798,288
退職給付引当金	2,166,477	2,198,544
役員退職慰労引当金	111,170	83,450
利息返還損失引当金	214,230	175,992
建物等撤去引当金	173,000	173,000
資産除去債務	143,836	158,215
長期預り保証金	1,239,577	1,114,237
長期預り敷金	2,247,717	2,292,533
その他	1,161,702	1,289,531
固定負債合計	24,340,265	23,283,792
負債合計	47,098,202	46,427,696
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,697,500	3,697,500
資本剰余金	5,347,500	5,347,500
利益剰余金	6,451,164	6,909,681
自己株式	277	327
株主資本合計	15,495,887	15,954,354
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	35,079	42,828
その他の包括利益累計額合計	35,079	42,828
少数株主持分	20,953	22,252
純資産合計	15,551,920	16,019,435
負債純資産合計	62,650,123	62,447,132

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
売上高	57,148,646	56,857,558
売上原価	42,923,615	42,774,069
売上総利益	14,225,030	14,083,488
営業収入	2,496,937	2,501,325
営業総利益	16,721,967	16,584,814
販売費及び一般管理費	15,273,702	15,195,248
営業利益	1,448,265	1,389,565
営業外収益		
受取利息及び配当金	11,752	28,638
持分法による投資利益	72,100	77,936
その他	25,061	11,401
営業外収益合計	108,914	117,976
営業外費用		
支払利息	340,143	287,451
その他	8,239	7,876
営業外費用合計	348,382	295,327
経常利益	1,208,796	1,212,214
特別利益		
退職給付制度終了益	47,745	-
特別利益合計	47,745	-
特別損失		
固定資産除却損	128,041	161,761
減損損失	619,810	-
退職特別加算金	14,558	-
その他	134,198	50,654
特別損失合計	896,608	212,415
税金等調整前四半期純利益	359,933	999,799
法人税等	217,402	479,834
少数株主損益調整前四半期純利益	142,530	519,964
少数株主利益	4,044	3,699
四半期純利益	138,486	516,265

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	142,530	519,964
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	782	7,748
その他の包括利益合計	782	7,748
四半期包括利益	143,313	527,713
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	139,268	524,013
少数株主に係る四半期包括利益	4,044	3,699

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

項目	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日至平成24年11月30日)
税金費用の計算	税金費用の計算については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日至平成24年11月30日)
(「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日至平成24年11月30日)						
<p>当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>店舗</td> <td>建物及び構築物、土地、借地権、その他</td> <td>岡山県、香川県</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小の単位として店舗を基本単位とし、また遊休資産については、物件単位ごとに資産をグルーピングしております。</p> <p>営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループ等について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減損額を減損損失(619,810千円)として特別損失に計上しております。</p> <p>減損損失の内訳は、建物及び構築物315,879千円、土地41,954千円、借地権135,186千円、その他126,790千円であります。</p> <p>なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額又は使用価値により測定しております。正味売却価額については、不動産鑑定士による鑑定評価額又は公示価格及び固定資産税評価額等を基準として評価しております。また、使用価値については、将来キャッシュ・フローを5.0%で割り引いて算定しております。</p>	用途	種類	場所	店舗	建物及び構築物、土地、借地権、その他	岡山県、香川県	
用途	種類	場所					
店舗	建物及び構築物、土地、借地権、その他	岡山県、香川県					

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)
減価償却費	1,427,329千円	1,358,200千円
のれんの償却額	35,479千円	47,769千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成23年5月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	28,874	2円50銭	平成23年2月28日	平成23年5月25日
平成23年10月6日 取締役会	普通株式	利益剰余金	28,874	2円50銭	平成23年8月31日	平成23年11月9日

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成24年5月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	28,874	2円50銭	平成24年2月29日	平成24年5月25日
平成24年10月5日 取締役会	普通株式	利益剰余金	28,874	2円50銭	平成24年8月31日	平成24年11月8日

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日)

1 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント (千円)	その他(千円) (注)1	合計(千円)	調整額(千円)	四半期連結 損益計算書 計上額(千 円)(注)2
	小売事業				
営業収益					
外部顧客への営業収益	55,031,491	4,614,092	59,645,583		59,645,583
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	66,556	1,010,129	1,076,686	1,076,686	
計	55,098,048	5,624,221	60,722,269	1,076,686	59,645,583
セグメント利益	1,201,530	246,734	1,448,265		1,448,265

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、惣菜等調理食品の製造販売業及び関係会社等への商品供給に係る事業であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3 営業収益は、売上高及び営業収入の合計額であります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「小売事業」セグメントの固定資産において、収益性の低下等により減損の兆候が認められたため、回収可能性を検討した結果、当該固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、619,810千円であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)

1 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント (千円)	その他(千円) (注)1	合計(千円)	調整額(千円)	四半期連結 損益計算書 計上額(千 円)(注)2
	小売事業				
営業収益					
外部顧客への営業収益	54,709,120	4,649,763	59,358,884		59,358,884
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	67,303	1,044,588	1,111,892	1,111,892	
計	54,776,424	5,694,352	60,470,776	1,111,892	59,358,884
セグメント利益	1,167,160	222,404	1,389,565		1,389,565

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、惣菜等調理食品の製造販売業及び関係会社等への商品供給に係る事業であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3 営業収益は、売上高及び営業収入の合計額であります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
1株当たり四半期純利益	11円99銭	44円69銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	138,486	516,265
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	138,486	516,265
普通株式の期中平均株式数(株)	11,549,653	11,549,645

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成24年10月5日開催の取締役会において、平成24年8月31日の株主名簿に記録された株主または登録株式質権者に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

中間配当金の総額 28,874千円  
1株当たりの中間配当金 2円50銭  
支払請求権の効力発生日  
及び支払開始日 平成24年11月8日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 1月 8日

株式会社天満屋ストア  
取締役会 御中

イースト・サン監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 太田 洋一

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 京町 周平

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社天満屋ストアの平成24年3月1日から平成25年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成24年9月1日から平成24年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年3月1日から平成24年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社天満屋ストア及び連結子会社の平成24年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。